

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0171600281		
法人名	有限会社 四海堂		
事業所名	グループホーム おだやか		
所在地	檜山郡上ノ国町字上ノ国274番地の1 (電 話) 0139-55-3117		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年3月28日	評価確定日	平成20年4月9日

【情報提供票より】 (平成20年 3月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11人	常勤 8人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費15,000 円 暖房費5,000円(10-4)
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (20年 3月 15日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1	要介護2			
要介護3	4	要介護4	3		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 83歳	最低	73歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上ノ国診療所・上ノ国歯科診療所・渡辺病院・函館脳神経科 他
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

上ノ国町は檜山の南端にあり、雄大に流れる天の川は日本海へと続き、山林が多く自然豊かな町である。天の川橋を渡ると、上ノ国診療所と向かい合った所にグループホームおだやかが位置している。母体の整骨院は機能訓練型サービスを導入し、利用者の身体機能低下を防止して、地域での継続的な暮らしを支援している。管理者は、同業者との交流を通して、質の向上に取り組み、最近では終末期を迎えた利用者をチームでケアし、家族から感謝されている。利用者は、安心と尊厳を守られながらおだやかに生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である行政との関わりについては、町の栄養士による勉強会や、包括支援センターと連絡を密にするなど改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、管理者が一人で作成したのでチームでの取り組みが望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は実施されていない。4月中に開催する予定であるので実現されることを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見苦情の受付窓口を設け、家族から聞く努力や場面作りをしている。今のところ感謝の言葉はあるが運営に反映するまでの苦情には至らず、チームで声かけを徹底して、意見・苦情を言いやすい体制作りに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会行事や近くの小学校の運動会に参加したり、散歩のときの挨拶や声かけを大切にしている。町の「火まつり」の際には、参加者がホームに集合し、ホームではお茶漬けを提供するのが恒例であるなど地域との交流は盛んである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体は整骨院で、機能訓練を重視した独自の理念を作成し、寝たきりにならずに住み慣れた地域で安心しておだやかに家族として暮らすことを柱にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	寝たきりに、しない、させない、ならない、と具体化した理念は、ホームの見やすい所に提示し、カンファレンス会議の中で共有し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの小学校の運動会、町内会行事には積極的に参加しており、町の火まつりの時は、祭りの参加者が訪れホームではお茶漬けを提供するなど交流は盛んに行われている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	4回目の外部評価であり意義は十分理解しているが、今回は、終末期を迎えた利用者のケアで時間的余裕がなく、管理者が一人で作成している。	○	事情は理解するが、今後のために職員全員で取り組むことを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は実施していない。	○	管理者は運営推進会議の必要性は理解している。包括支援センターに相談して4月中に実施したい考えなので、実現に向かって努力されることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険福祉課、包括支援センターでは終末期看取りの書式の指導、栄養士による塩分とカロリーの勉強会など町担当者との連携は常にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月初めに、利用者の日常生活と、ホームが立て替えた金額、職員の異動がある時は紹介など、家族には定期的に報告をしている。支払いは来訪していただくを原則とし、金銭出納張の確認と情報提供の機会としている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見の受付窓口を設置したり、家族が話しやすい雰囲気づくりに心掛けている。今のところ感謝の言葉はあっても、運営に反映させる意見はないが、声かけを大切にチームで取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限に抑えるための努力や工夫をしているが、代わる時は1ヶ月の期間をとりスムーズに移行できるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の研修は全職員でしているが、ホーム外の研修会には、管理者のみの参加である。	○	運営者は、職員の質の確保と向上に不可欠であることを理解し、ホーム外の研修会に職員が参加できるように取組むことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣の同業者と交流があり、相互訪問、情報交換をして職員に伝え質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族とホームを見学、体験をした上で徐々に馴染めるよう時間をかけ、納得した上でサービスを利用してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者と職員は、家族として意識し生活しているので、介護している立場という態度は見られない。利用者から調理の仕方を教わったり、知恵の多さに学ぶことがあり支えあう関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向を把握し、本人の希望を大切に、職員は申し送りノートの中で共有し、支援している。意思疎通が困難なときは、言葉や表情で柔軟に対応している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意見や希望を取り入れ、地域の中で継続的に生活するための課題にアイデアを出し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度の見直しをしているが、状態の変化がある時は、家族と相談の上随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望で、通院支援、早期退院支援、遠方医療機関への受診や外出支援など柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望で、ホーム向かいにある協力医をかかりつけ医としている利用者が多いが、入院などで遠方病院での受診が必要な場合も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最近、看取りを経験したホームである。包括支援センターの指導で書類を作成し、かかりつけ医師の指示に従って介護し、家族と連絡を密にしながらかチームで協力し、対応した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報記録は所定の箇所に保管し管理している。職員は日頃から言葉がけや態度に気をつけているがカンファレンス会議の中でも確認し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、天気の良い日は、玄関前でのお茶会を要望することが多い。その他、買い物、散歩など個々のペースにあわせ臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は「春の山菜のてんぷら」だったので、山菜取りのことなど懐かしそうに話してくれ、楽しい食事のひと時を過ごした。後片付けは職員と一緒に食器を拭いたり、テーブルを拭くなどしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	定期検診が、水曜日なので利用者の希望で入浴は火曜日、金曜日としているが、本人が望む場合は自由に入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に家族から生活歴を聞き、それぞれ家庭菜園や工作、カラオケなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や、希望に応じて近所の友人を訪問したり、散歩、ドライブ、買い物などで気分転換をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないので出入りは自由であるが、夜は防犯のために施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で消化訓練、避難訓練を年1度実施しているが、夜間想定訓練、地域との協力・連携はできていない。	○	運営規定の中にも記載されている項目なので、利用者の安全を守るために協力機関との連携を図り取り組むことを望む。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、カロリーなどについては栄養士の指導を受けている。献立は地元の食材と、利用者の嗜好を大切に考え、提供している。水分摂取量は一日1000ml～1200mlを目安に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所が中央に、居室が両サイドにある間取りで、利用者の希望により全室、戸が開かれている。開放的で採光もほどよく、行動がよく把握できる利点がある。食卓にタンポポの鉢植えが春を感じさせ、利用者が春の歌を口さずんでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れたものの持込は自由で、家族と相談して、タンス、テーブル、ソファなどで居心地よく工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。